

FES (Food Education Supporter) ～食育応援隊～

分野：教育・研究、ボランティア、地域活動

代表者：農学部資源生物科学科 3年 黒澤 まりな

連携先

JA 水郷つくば

青田 洋一様 (食育担当)

・町内6小学校で行われている食育事業を支援し、さらに充実した食育活動が行えるようにサポートすること。

・食育通信を毎月発行し、食育事業を一時的な体験活動で終わらせず、継続的に興味を持ってもらえるような情報発信をすること。

参加者

黒澤まりな	農学部資源生物科学科	3年
渡邊明花	〃	3年
草谷奈津子	〃	3年
酒井円香	〃	3年
宮田海	〃	3年
宇賀神温	農学部食生命科学科	2年
伊藤友紀	農学部地域総合農学科	2年
鈴木亜実	〃	2年
鈴木日菜	〃	2年
高橋理子	〃	2年

本プロジェクトの最終的な目標は、小学生に食育授業や我々が発行する食育通信などを通して、食べ物に興味・関心を持ってもらう事である。教育委員会・小学校・農協そして茨大生が協力して食育事業を行うことで、阿見町全体に小学生を中心とした食育の環が広がり、阿見町が全国でも有数の食育が盛んな地域になることを目指している。

プロジェクトの概要

阿見町では、町内6校の小学校に対し、食育事業が行われている。茨大農学部生もサークル活動を通じ、2014年度まで支援していた。しかし、そのサークルの撤退により、食育事業の縮小を余儀なくされてしまった。そのため、2014年度に設立された本サークルが食育活動を支援するようになった。本プロジェクトでは、阿見町の食育事業に参画し、小学校の総合的な学習の時間等の栽培活動を支援するとともに、食育推進に貢献することをテーマとしている。

プロジェクトの目標は以下の3つである。

・阿見町の食育事業を通して、小学生に食や農業に関心をもってもらうこと。

プロジェクトの成果報告

今年度は主に町内4小学校でのサツマイモ栽培と2小学校での落花生栽培を支援した。定植の前には、サツマイモや落花生の栽培過程や栄養、調理方法などについて小学生の前で実際に授業を行い、児童らとともに播種や定植を行った。その後も、JAの方とともに小学校に行き、こまめに畑の管理を行い、収穫の際も児童らとともに作業した。



(写真1) 本郷小での落花生収穫の様子



(写真2) 君原小での落花生収穫の様子

基本的に活動日程は小学校の予定に合わせるため、当日授業が入っていないメンバーが小学校に行き、活動することになっている。小学校とは年度の始まりに、JA 水郷つくばの方々を交えた会議を行い、1年を通じた食育活動の概要を話し合っている。小学校での活動の際は、毎回、各先生方に挨拶をし、メンバーの顔や FES という食育サークルを先生方に覚えてもらうように努めている。

また、食育通信を毎月発行し、食育授業を一時的な体験活動で終わらせず、継続的に興味を持ってもらえるような情報発信をすることもできた。どの学年の児童にも読みやすいように、ふりがなや色使いを工夫して制作し、各小学校の各学年のクラスに発行している。昨年度はヤーコンが中心の内容であったが、今年度はヤーコンだけでなくさまざまな野菜の栄養や豆知識、地域の

郷土料理の紹介や、茨城県の特産品についてなど、食育に関わる幅広い情報を分かりやすく伝えることを意識した。



(写真3) もぐもぐ通信 9月号のようす

児童の前で授業を行うことや食育通信の発行において共通するのは、対象が児童全員であるため、元々食育に関して何も知らなかった児童にも興味をもつきっかけ作りになるということである。農業や食育に関する企画をしているサークルは他にもあるが、小学校外で行われている事が多く、参加する児童は元々食育に関心の強い家庭であることが考えられる。したがって我々が小学校の授業時間の中で、食育の授業を行うことの意義は大きいと考えている。

来年度からJAと各小学校の食育事業が縮小されることが分かっている。これまではJAの方とFESが連携して各小学校で活動していたが、今後は我々FESが直接小学校と連絡を取り合い、食育ボランティア活動を継続していく必要がある。そのためまずは食育活動と積極的な小学校との関係を密にして、そこでの活動を年間を通して支援していこうと考えている。そして目指すべき形はJAの仲介が無くても、FESが阿見町の各小学校と連携して食育支援を行うことである。来年度はまずコンスタントに活動を行うためには人材確保が第一であるのと、活動が主に平日であるので自分らの講義と両立させていくためにFESの運営を工夫していくべきだと考えている。